

三田・能勢地方のギフチョウ (I)

— 1981年度分布調査 —

勝 屋 潤

三田、武田尾地方のギフチョウは、1970年頃までは多産しており、シーズン中の天候の良い日には、30~40人が押しかけていたが、その後開発と乱獲（特に食草の根こそぎ採取）により著しく個体数を減じた。中でも武田尾の大原野周辺は、大がかりな開発が行なわれ、ギフチョウを多産した安場池神社周辺は現在見る影もなく宝塚市指定による「チョウ採集禁止」の立札が立っている。また竜王山の麓一帯も田畑が減少し、食草もなくなってしまった。

最近では採集に訪れる人もまばらで、来た人は大原野で現在飼育、放蝶されているギフチョウを見に来ていると云っても過言ではなくなった。

しかし、武田尾の境野から玉瀬にかけての地域と三田から篠山にかけての地域は減少したと云っても、まだまだ多くのギフチョウが見られる。

一方、能勢地方のギフチョウは昨年大阪昆虫同好会がまとめられた「北摂の昆虫(1)」にも書かれているが、能勢町吉野には若干のギフチョウが残っており、さらに今年は、本会員の仲田元亮さんならびに森地重博さんと共に吉野から離れた地域でのギフチョウも発見できた。

私は、1981年4月~6月に三田から能勢にかけての地域のギフチョウおよびカンアオイ属を調べ各地域のギフチョウの飼育も行なった。1人の1シーズンだけの調査では、不充分極まりないが一応中間報告として1981年度分の分布調査を報告したい。

1. 調査地域

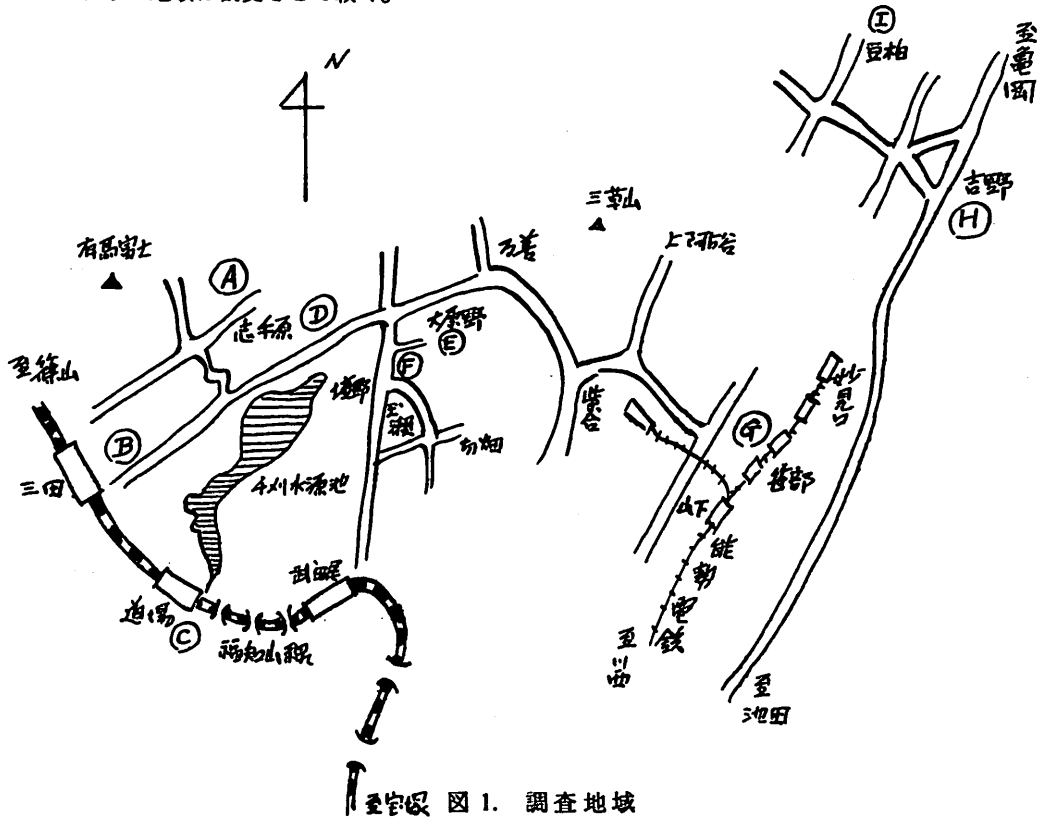
調査地域は図1に示す通りA点からI点までの9地域である。

- A：三田市志手原（兵庫）
- B：三田市上野（兵庫）
- C：神戸市道場・鎌倉峠（兵庫）
- D：宝塚市千刈水源池（兵庫）
- E：宝塚市武田尾大原野（兵庫）
- F：宝塚市武田尾境野・玉瀬（兵庫）
- G：川西市笹部（兵庫）

H：豊能郡能勢町吉野（大阪）

I：豊能郡能勢町豆粕（大阪）

またこの他に兵庫県小野市，西脇市，多可郡中町，黒田庄などの調査も行ったが，本報告文ではこれらの地域は割愛させて載く。



至宝塚 図1. 調査地域

2. 各地域の現状

A. 三田市志手原

水田に面した林縁に早咲きのツツジが咲き，これに数頭のギフチョウが訪れている。武田尾地方ではもう見られなくなった光景であるが，本地域に於てはこういった光景がまだ見られる。

クヌギ，コナラ，ナラガシワの雑木林（二次林）の中にはヒメカンアオイは少なく明るく展けた水田のあぜに多く見られる。

4月18日，他の地域を回った帰りに立寄ったので，時刻はPM 2:00を過ぎていたが，この日は晴天無風で気温も高かった為，数頭がツツジで吸蜜しているのが見られた。段々畑に沿って一定の蝶道があるらしく同個体を3度ネットに入れたりしたが，この日，後翅下部の赤紋が完全に黄橙色に置き代った♀を1頭採取した。

4月25日には田のあぜのヒメカンアオイに夥しい数の卵がついており，5月18日に見た時に

は、その卵の半数強の若令幼虫がついていた。

しかしその後、このあぜ一帯に火入が行なわれ、5月23日に訪れた時には、ヒメカンアオイは完全に消滅していた。多数の幼虫は毎年このようにして全滅し林内のヒメカンアオイで育った少数個体によって種の維持がなされているのである。

しかしこの地も押し寄せる開発の波には打ち勝てず、もうすぐ近くまで宅地増成が行なわれている。

B. 三田市上野

三田から干刈水源池に向う途中にはヒメカンアオイが点々と分布している。特に杉などの植林が切られた後の空間には、少ないながらギフチョウが見られる。A点に比して、ヒメカンアオイはずっと少ないが、葉の大きいのがここの特徴で、次の杉苗木植生がいつなのか不明であるが、そうなるとこの地域も全滅の危機がある。

近くのクリ林にはヒメカンアオイは見られないが、ギフチョウは見られ、また倒木の下で蛹殻を1つ発見している。(4月25日)

また河川を横切る個体も見られる。ここにはコツバメが多く、河川沿いのハンノキにはミドリシジミが多い。おもしろいことに干刈水源池に近づくにつれ、少しずつではあるが、ミヤコアオイが見られるようになる。

C. 神戸市道場・鎌倉峽

鎌倉峽へのハイキングコースの入口の竹林にはヒメカンアオイが見られる。

しかし、道場のギフチョウはその姿を消して以来、再発見されないままである。

D. 宝塚市干刈水源池

干刈水源池にもギフチョウは現在棲息していない。

ここで興味ある事実として、吊橋附近ではヒメカンアオイは見られずミヤコアオイのみ群棲している事があげられる。一般に文献などではヒメカンアオイとミヤコアオイは混成しない事になっているが、三田の混成地およびこのミヤコアオイを地質学的にどう説明されるのか今後検討の余知があるように思われる。

E. 宝塚市武田尾大原野

10年前多産していた竜王山の麓と安場池神社の周辺は現在、昔日の想かげはなく、飛翔しているギフチョウはほとんど近くで飼育放蝶された個体である可能性が高い。コツバメやミヤマセセ

りも随分と減ってしまった。4月11日に訪れた時にはあまりのショックに玉瀬へと足を回したが、4月18日に再度訪れ附近をよく調べてみると道場寄りの斜面に1ヶ所ヒメカンアオイとミヤコアオイの混成地がある。そして数頭のギフチョウが見られヒメカンアオイのみから卵が発見され、ミヤコアオイには産卵されていない。

話によるとミヤコアオイを植えている人がいるらしい。このもそうかも知れない。しかし私の友人の話では他に1ヶ所(つり堀り附近との事)に多数のミヤコアオイを含むヒメカンアオイとの混成地があり、とても人が植えたとは思えないと云う。

私はその場所を確認していないが、とにかく、両カンアオイの混成、分布については三田、道場を含めて調べる必要があると思う。

F. 宝塚市武田尾境野、玉瀬

大原野から境野を通して玉瀬に向うと以前なら逆であるが現在はギフチョウの個体数は増えてくる。

境野あたりの田畑や林縁を歩いていても飛び出してくるし、玉瀬には最近人が入らなくなったせい、かなりの個体数を4月11日、4月18日に確認している。

しかしヒメカンアオイは非常に少なく、このギフチョウの生命力に敬服して見つけた卵には手をつけられなかった。

玉瀬から切畑に向うと次第に個体数は減少し、切畑ではもう見られない。

G. 川西市笹部

ギフチョウの飼育に際し、三田、武田尾のヒメカンアオイを採取するのは絶滅への道を早めるようなものである。そこで本会員の仲田元亮さんに川西市笹部のミヤコアオイの自生地へ案内して載せ、ギフチョウの分布していない本地域のミヤコアオイで飼育する事にした。

本地域は例え放棄してもギフチョウが生活していけるだけの日照、空間、吸蜜植物などがなく、このミヤコアオイは非常に多いので飼育には一番妥当であると思われる。

H. 豊能郡能勢町吉野

4月12日、仲田元亮さんと共に森地重博さんの案内で当地を訪れた。クリ林のほんの一角にしがみつくようにして生きているギフチョウを見た時は胸がつまる想いであった。

数頭目撃したが飛翔は弱々しく、♀にいたっては、この日、目撃した2頭とも羽が伸び切らず、ミヤコアオイにしがみつくように地面を歩行していた。

個体数が少ない為、近縁交配となり累代飼育と同じような結果が出ている様に思われた。

本地域のギフチョウはミヤコアオイのみを食しており、「北摂の昆虫(1)」によれば武庫川流域のものとは異なる系統という事である。おそらく京都系のものであろう。

結局私は1♂のみの採集で打ち切り、羽の伸び切らない2♀はそれぞれ仲田さんと森地さんが持ち帰り産卵させる事にした。

1. 豊能郡能勢町豆粕

吉野を訪れた日、我々は豆粕にてギフチョウの棲息を確認する事ができた。恐らく初記録であろう。本地域のものは、(この日3人で採集した個体に関しては)、前翅がOリングをなしており興味深い。飼育個体の場合、よくOリングは出てくるが野外産ではそう多くなく、私は今までに武田尾で2ex、採集しているのみである(1970年)。ミヤコアオイは非常に少なくここにも開発の手が伸びている。

本地域に関しては改めて森地さんから発表されるであろうから、ここでは簡単な報告のみとする。

以上の地域をまとめると表1のようになる。

表1. 各地域のギフチョウの食草と個体数

調査地域		食草	個体数
A	三田市志手原	ヒメカンアオイ	◎
B	三田市上野	ヒメカンアオイ	○
C	神戸市道場(鎌倉峽)	ヒメカンアオイ	×
D	宝塚市千川水源池	ミヤコアオイ	×
E	宝塚市武田尾(大原野)	ヒメカンアオイ	○
F	宝塚市武田尾(境野, 玉瀬)	ヒメカンアオイ	◎
G	川西市笹部	ミヤコアオイ	×
H	能勢町吉野	ミヤコアオイ	○
I	能勢町豆粕	ミヤコアオイ	○

- ◎ 多い
- 少ない
- × 棲息していない

3. ギフチョウの飼育

各地域のギフチョウを使用して、条件別による羽化率を調べる為、表2のようなグループ別けをした。

志手原、玉瀬産は自宅にてヒメカンアオイに産卵させたものであり、吉野、豆粕産は仲田元亮さんのお宅でミヤコアオイに産卵させて戴いたものである。

尚、羽化率については次回に報告する。

表2. 飼育条件と飼育結果(中間報告)

グループ	産地	産卵数 ^{*1}	蛹化数	食草 ^{*3}	飼育場所	冬期蛹の保管場所
A	志手原	67	18	ヒメカンアオイ	室内	室内
B	志手原		21	ミヤコアオイ	室内	室外
C	志手原		21	ミヤコアオイ	室外	室外
D	玉瀬	59	19	ヒメカンアオイ・ミヤコアオイ	室内	冷蔵庫
E	玉瀬		15	ヒメカンアオイ・ミヤコアオイ	室外	室外
F	玉瀬		17	ヒメカンアオイ・ミヤコアオイ	室外	室内
G	吉野	30 ^{*2}	—	—	—	—
H	豆粕	21	5	ミヤコアオイ	室内	室内
I	豆粕		5	ヒメカンアオイ	室内	室外
J	豆粕		4	ミヤコアオイ	室外	室外
K	豆粕		6	ミヤコアオイ	室外	冷蔵庫

* 1. 産地に還元した数は省く。

* 2. 吉野産はすべて葉表に産卵され、残念ながらふ化しなかったが、森地さん宅では無事ふ化し蛹化している。

* 3. ミヤコアオイは一部奈良県金剛山産のものを使用した。

4. まとめ

武庫川流域のギフチョウと能勢産のものは自然状態での食草は異なるが、飼育に際しては全く問題がない。蛹化率も極めて良かった。

ギフチョウの蛹に関しては、一部をもとの産地(三田、武田尾)に還元した。最近はやたら放蝶する人が多く、分布調査は非常にやりづらいが、他地域のものを導入するわけではなく、もとの産地への還元という理由付けで私も一部を放蛹した。

但し、能勢産については今年は全て保管している。

能勢のギフチョウに関しては、仲田元亮さんが、現在執筆中の「能勢の昆虫」(追加、改訂版)に詳しく発表されるであろうし、森地重博さんもまた、この地域のギフチョウを詳しく調べられているので今后、新しい知見が得られると思われる。

私も今後共こういった調査を続けていくつもりである。(1981. 11. 9)

5. 参考文献

- 1) 日浦 勇:「蝶のきた道」(蒼樹書房)
- 2) 原 聖樹:「ギフチョウの自然史」(築地書館)
- 3) 渡辺康之:「兵庫県武田尾周辺のギフチョウ」(昆虫と自然 14(2), 1979)
- 4) 大阪昆虫同好会:「北摂の昆虫(1)蝶類」
- 5) 宇山喜士:「大阪付近のギフチョウについて」(昆虫と自然 15(5), 1980)
- 6) 橋本セツロー:全国Luehdorfia 情報(TSÚISO No115(1977))

(神戸市垂水区東舞子町18-61-205号)

宝塚大橋の照明燈で採集した蛾(その3)

新 家 勝

今回は、シャチホコガ科、ドクガ科、カレハガ科、カギバ科、シャクガ科、ミノガ科およびメイガ科について報告する。

Notodontidae	シャチホコガ科	
1. <i>Stauropus basalis</i>	ヒメシャチホコ	
1979.9.9	武庫川町	
2. <i>Harpyia lanigera</i>	ナカグロモクメ	
1979.5.6	武庫川町	
3. <i>Naganoea manleyi</i>	オオトビモンシャチホコ	
1978.10.28	武庫川町	
4. <i>Phalera fuscescens</i>	ムクツマキシャチホコ	
1979.9.7	武庫川町	
5. <i>Clostera anachoreta</i>	ツマアカシャチホコ	
1979.5.13	武庫川町	